０２／０１／０６　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：神が示された最高の生き方
聖書箇所：マルコの福音書　１０章３２－４５節

　イエスの周りには多くの群集がいました。その人たちにイエスは多くのことを教えて来られました。いよいよガリラヤからエルサレムへと向かって行かれます。ここでもイエスは弟子たちに、信仰をもった者はどのように生きて行くのかを教えて行かれます。

☆イエスの生き方から学ぶこと
1．従順さ
イエスは神のみこころに従順に従って行かれました。32 節、エルサレムに向かってイエスは一行の先頭に立って歩いて行かれました。これは徹底して神のみこころに従って行かれるイエスの非常な決意の現れです。その様子に弟子たちは驚き、人々は恐れを覚えるのです。従順さは何もかも捨てて従って行くことです。それが神の望まれることです。神は私たちの弱さはすでに知っておられます。ですから、従ってゆく者を助けてくださるのです。
2．謙遜さ
33,34 節の十字架についてのイエスご自身の言及は３回目です。ここには八つの未来形があります。「引き渡される」「死刑に定め」「引き渡す」「あざけり」「つばをかけ」「むち打ち」「殺す」「よみがえる」です。これは旧約聖書の預言の成就でもあります。人となられた神、これこそ究極の謙遜の姿です。

さて、弟子たちはどうでしょう？弟子たちの行動、その生き方を見てゆきましょう。
35 節、ヤコブとヨハネがイエスのもとにきたことは彼らの目的がありました。37 節「あなたの栄光の座で、ひとりを先生の右に、ひとりを左にすわらせてください。」とある通り、彼らは利己的です。弟子たちのこの反応はこれが初めてではありません。8：32 にはペテロが「イエスをわきにお連れして、いさめ始めた。」とあり、9：34 には弟子たちは「だれが一番偉いかと論じ合っていた」とあります。彼らは同じ間違いを繰り返しているのです。弟子たちはイエスのメッセージの意味が分かっていないのです。三日の後によみがえると聞き、それは王国が築かれるときだから、名誉ある座に着こうというのです。右の座は最も権威ある座です。マタイ 20：20 にはゼベダイの子たちの母がイエスのもとに来て、このことをイエスに願っていることが記されています。
　38 節には十字架の真意が書かれています。人間には到底出来ないことをイエスは成して行かれようとしておられます。「わたしの飲もうとする杯」、「杯」は喜び、祝福、また、罪に対する神のさばきの意味があります。「飲む」とは強制させられてではなく、自ら進んで飲むという意味です。「わたしの受けようとするバプテスマ」とは災難、困難に圧倒されることです。圧倒されるようなさばきに会うというのです。人々が受けるべき罪のわざわい、神のさばきを受けようとします。この「受ける」は受身です。
　これに対して、弟子たちは「できます」（39 節）と言います。十字架の本当の意味を理解していないのです。彼らはこれは信仰者として生きて行く上での困難と受け取りました。確かに、ヤコブは最初の殉教者でした。ヨハネは最後に召されましたが、パトモス島に流刑させられました。イエスはあえて「なるほど…」とそのことを予言しておられます。しかし、それは父なる神が決められることだと言われます（40 節）。41 節からは、弟子たちに不一致が生じたことが記されています。「腹を立てた」とあります。自分がその席につくべきだと思うからです。自分の扱いに対して腹を立てること、それはプライドです。本当の自分の姿が分かっていないのです。この弟子たちに対してイエスは 42～45 節に謙遜さを教えてゆかれます。
☆それは、この世における偉大さと神の国での偉大さの相違です。
人の上に立とうとする、そして立っている人が偉い人、これはこの世の基準です。神の国の基準は、偉い人とは仕える人です。イエスは弟子たちに仕えることの大切さを教えておられます。45 節に「人の子」とありますが、これは栄光の神が人となられた、そのへりくだりを示すことばです。人々の益のためにご自分を捨てられたのです。また、「贖い」とありますが、このことばはこことマタイ 20：28 にだけ出てきます。人々の解放のために払われる代価です。罪の奴隷から解かれるように…と。「多くの人のために」の「ために」とは「～の代わりに」「引きかえに」「身代わりに」という意味です。罪からの救

いが与えられるのです。
　私たちは神を礼拝するために救われたのです。私たちに最も必要な罪の赦しが与えられました。イエス・キリストはそのための代価です。この目的のためにイエスは人となってこの世に来てくださったのです。愛の最高のすがたです。私たちは互いに仕えあいます。自分を捨て、他の人のために、みことばをもって励まし、助けることです。
　再臨は近いのです。